

## 農林水産大臣賞（団体の部）

地域住民が一丸となった追い払いによりサル被害を軽減

## 阿波地域住民自治協議会

（代表者：会長 藤森 莊剛）

三重県伊賀市

### 主な取組

被害が深刻化しているサルについては、学習能力が高く、人慣れするなどの理由から、被害軽減に成功する事例は非常に少ない。

当該協議会では、サルによる農作物被害や住居侵入に対応するため、地域住民の全員が自発的に被害防止活動の担い手となって、自らが定めた追い払い手順に基づき、山頂付近にまで徹底的に追い払うなどにより、餌場にされにくい集落づくりを実践し、被害を大幅に軽減させた。さらに、被害のために耕作を諦めざるを得なかった畑で営農を再開するなど、地域の活性化に大きく貢献。

地域住民が一丸となったこの取組は、サル被害に強い集落づくりのモデルとなり、周辺地域のみならず、サル被害に苦しむ県内外の地域にも普及。

集落ぐるみで行うことができる効果の高いサル対策として期待される。

## 生産局長賞（団体の部）

捕獲した野生鳥獣の減量化技術を開発・普及

### 枝幸町・ホクレン農業総合研究所

（代表者：枝幸町長 荒屋 吉雄）

北海道枝幸町

#### 主な取組

重要課題であるエゾシカ等の捕獲獣の処理として、極めて低コストな方法であり、他の地域に普及できる減量化技術を開発（エゾシカなど有害鳥獣の枝幸式発酵減量化法）。

この方法により、捕獲したエゾシカ等の鳥獣を減量化するために必要となる資材は、家畜ふん尿（牛糞）及び木質チップのみ。好気性発酵を促すために1週間から10日ごとに切り返すだけで減量化が可能であり、省力化・低コスト化に成功。

当該技術は、枝幸町のホームページにもマニュアルとして掲載し、積極的に技術を紹介。この技術が普及されることにより、有害鳥獣の捕獲活動が一層促進され、野生鳥獣による農業被害の減少に繋がることを期待。

## 生産局長賞（団体の部）

地元に着したユニークな事業を展開して被害対策に貢献

### 猪鹿庁

（代表者：興膳 健太）

岐阜県郡上市

#### 主な取組

地域の里山保全を目的とした平均年齢30歳（男性5名、女性2名）による活動組織。

地元狩猟者や大学など様々な分野と連携し、新たな捕獲者の育成や捕獲したイノシシを活用した6次産業化など、他に例を見ないユニークな活動を展開し、積極的に情報発信。

特に、地域と密着した活動として、捕獲檻等の貸出から捕獲個体の止め刺し、個体処理などの支援のほか、人材育成として狩猟免許の取得や捕獲技術の習得等を支援。

これらの活動により、支援地域では、加害獣の捕獲数が増加し、被害軽減が図られるとともに、地域で自立した鳥獣被害対策に発展。

## 生産局長賞（団体の部）

実施隊の活用による捕獲の迅速化と獣肉のブランド化による地域の活性化

### 糸島市鳥獣害防止対策協議会

（代表者：会長 奥 博）

福岡県糸島市

#### 主な取組

民間の鳥獣被害対策実施隊員の任命による捕獲活動の迅速化、集落一帯となった侵入防止柵や緩衝帯の整備等により、イノシシによる被害を大きく軽減。

特に地域住民からの有害鳥獣捕獲要請に即日対応できる体制の整備として、比較的時間の融通が可能な自営業者を中心とした実施隊員の活動により、捕獲頭数が飛躍的に増大。

捕獲したイノシシの品質が劣化しない輸送方法（氷冷輸送）に取り組むことで高品質な獣肉を確保し、

「浮嶽くじら」としてブランド化するとともに、大学と連携して製品化した加工品（ソーセージ）等を販売することにより、地域活性化のツールとして活用。

これらの地域一体的な取組は、他の地域の模範的なモデルとして注目。

## 生産局長賞（個人の部）

二ホンザルの被害対策技術の確立、捕獲の担い手育成による地域貢献

### 尾形 英一 氏

福島県福島市

#### 主な取組

尾形氏は、福島市における二ホンザルの被害対策に貢献している人物であり、二ホンザルの行動調査を行うとともに、被害対策技術を確立。

福島市鳥獣被害対策専門員として、対策の中心となり、福島市二ホンザル保護管理事業実施計画に基づき、個体数調整における捕獲効率の向上に大きく尽力し、大幅に被害が軽減。

また、経験の浅い捕獲者の指導など、捕獲の担い手の育成に努めるとともに、農業者からの被害対策への要望を受け、ツキノワグマの安全な捕獲技術の開発など地域に貢献。

さらに、東日本大震災により拡大したイノシシの被害対策として、くくりわなの効率的な捕獲方法を開発・指導。